

## 〈幼稚園教育〉



幼児が友達のよさに気づき、かかわって遊ぶ楽しさを味わうための  
環境や援助の工夫 ～協同的な遊びを通して～

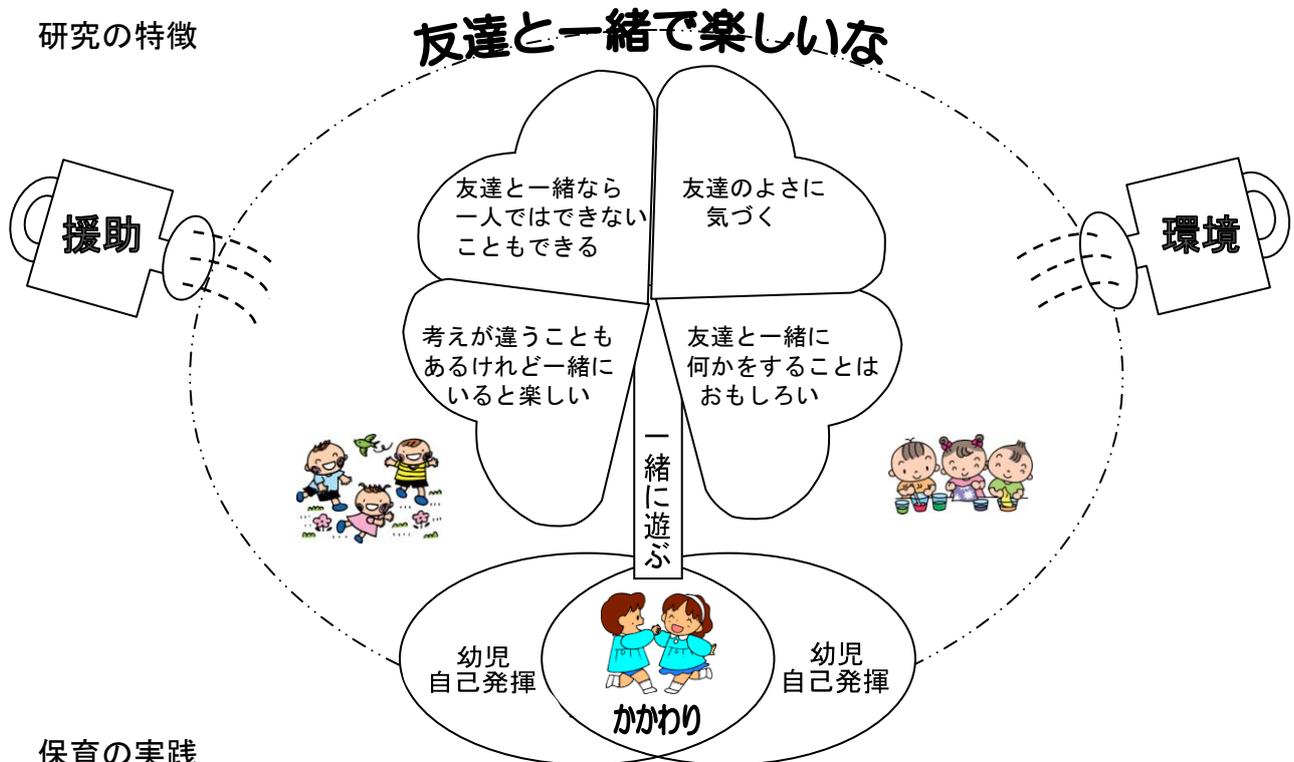
糸満市立高嶺幼稚園教諭 与儀久美子

### 1 研究テーマについて

これまでの保育を振り返ると、1学期前半は園生活に慣れるために生活の仕方を知る事に重点を置いて進めたり、クラスで踊りやゲームなどをしたり、教師も一緒に遊びに入りながら友達同士のつながりをもてるようにした。しかし、教師が側にいないと遊びが続かないことがあり、幼児の心に添った環境の構成や援助がなされていたかと反省する。

幼児が、仲間とかかわり、共に育ち合うプロセスで、かかわる楽しさを味わい「幼稚園って楽しい」という気持ちになるための環境の構成や教師の援助について研究を深めるため本テーマを設定した。

### 2 研究の特徴



### 3 保育の実践



実態把握(各々で遊ぶ姿)



環境構成(友達とかかわる)



援助(遊びの様子を伝える)

### 4 研究の成果

- (1) 教師があらゆる場面で幼児のよさを見つけそのことを伝え、また、幼児同士の思いをつなげるような声かけを工夫することで幼児は友達のよさに気づき、一緒に遊ぶ楽しさを味わう姿が見られた。
- (2) 幼児の育ちや発達段階によって遊びの素材や用具の数量を配慮し、友達とかかわるような環境を準備することで協同的なかかわりが見られるようになった。

## 〈幼稚園教育〉

# 幼児が友達によさに気づき、かかわって遊ぶ楽しさを味わうための環境や援助の工夫 ～ 協同的な遊びを通して ～

糸満市立高嶺幼稚園教諭 与儀久美子

## I テーマ設定の理由

### (今日的課題)

近年、少子化、核家族化、人間関係の希薄化などに加え、ゲーム等の電子機器の普及が進み、子どもの育ちに変化がみられるようになってきたといわれている。

幼児を取り巻く環境は、言葉がなくても豊富な玩具やゲームなどで一人遊びを楽しめ、また、買い物をするにも、必要な物をかごに入れカードをかざすだけで支払いがすむ等、合理的で効率性が優先された生活が増え、心が通う豊かな言葉のやり取りのある生活が減少してきているように思われる。

### (幼稚園教育要領から)

第一章総則の幼稚園教育の基本では「幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること」とある。幼児が教師や仲間を信頼し、安心して園生活を受け入れ、夢中になって「人やもの、出来事」に主体的にかかわることによって、充実感を味わい、幼児にとって楽しい幼稚園と感じることに繋がっていくものと思われる。

幼稚園は集団で生活する場であり、領域人間関係の内容で「友達によさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。」「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。」と示されているように、幼児は他の幼児と一緒に楽しく遊んだり活動したりすることを通して、人間関係が広がり深まっていく。

### (これまでの保育を振り返って)

本園では1年保育のため、毎年4月に新しい園児を迎えている。入園当初の幼児の姿は、集団経験が有る無しに関わらず、期待と不安を持っている。そのため、すぐに遊びだす子もいるが、教師の後を追ったり、友達が遊んでいる様子を見ていたり、ときには、不安が強まり泣き出す幼児も見られる。

1学期前半は、園生活に慣れるために生活の仕方を知る事に重点を置いて進めたり、クラスで踊りやゲームをしたりなど教師も一緒に仲間に入りながら友達同士のつながりを持てるようにしたが、教師が側にいないと遊びが続かない事があり、幼児の心に添った環境の構成や教師の援助がなされていたか反省する。

### (本研究において)

幼児が、仲間とかかわり、共に育ち合うプロセスで、かかわる楽しさを味わい「幼稚園って楽しい」という気持ちになるための環境の構成や教師の援助について研究を深めるため本テーマを設定した。

## II 研究の目標

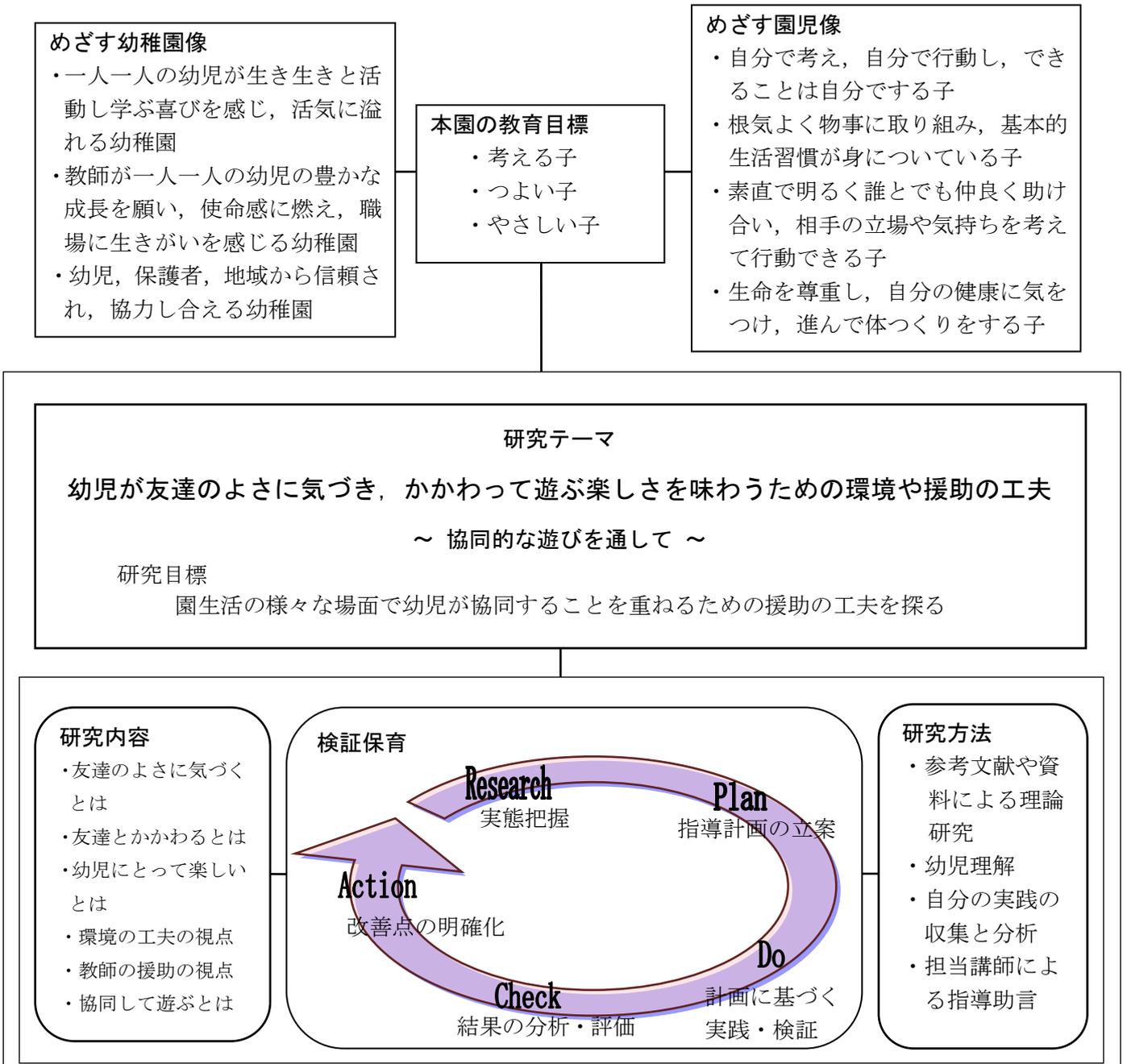
園生活の遊びを通して幼児が協同する経験を重ねるための援助の工夫を探る。

### Ⅲ 研究の方法

保育実践の協同的な遊びにおいて次の方法で行う。

- ・ 幼児の発達を理解し、幼児同士の思いや考えをつなげるような環境や援助の工夫をする。
- ・ よりよい環境構成や援助のあり方について理論研究や事例研究を深める。

### Ⅳ 研究構想図



### Ⅴ 研究内容

#### 1 友達のよさに気づくとは

幼稚園教育要領の領域人間関の内容(7)では「友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう」とある。幼稚園教育要領解説にあるように、「教師や友達と共に生活する中で、初めは『○○ち

ゃんは鉄棒が上手』といった表面的な特性に気づくことから、『〇〇ちゃんならいい考えを持っていると思う』『気持ちのやさしい〇〇ちゃんならこうするだろう』など、次第に互いの心情や考え方などの特性にも気づくようになり、その特性に応じてかかわるようになっていく。そして、遊びの中で互いのよさなどがいかされ、一緒に活動する楽しさが増してくる。」とある。

一人一人の幼児が「〇〇をしてみたい」と心を動かし、遊びを十分に楽しむ中で、お互いに思いや考えを表し、友達には自分と違う思いや考え方、行動の仕方などがあることに関心を寄せたり気づいたりすることが大切である。友達から刺激を受けたり、友達によいところを受け止められたりする関係を築いていくことで、より生活が豊かになっていく経験を重ねていくことも必要である。

そして、一人一人のよさや可能性を見いだし、その幼児らしさを損なわず、ありのままを受け入れる教師の姿勢により、幼児自身も友達のよさに気づいていくようになる。

## 2 友達とかかわるとは

入園当初は自分の世界にいる幼児も、次第に友達に目が向き始める。幼児は、他の幼児と一緒にいることや同じことをすることで、人と共にいることの喜びや人とつながる喜びを体験する。その後、自分らしさを十分に発揮し、次第に仲の良い友達と思いを伝え合いながら、遊びを進めるようになる。友達と一緒に様々な体験を通して、心を動かす出来事を共有することで、相手の感情にも気づいていくことができるようになっていく。

友達とかかわる力をはぐくむ上では、単にうまく付き合うことを目指すだけではなく、幼稚園で安心して自分のやりたいことを取り組むことで、友達と過ごす楽しさを味わったり、自分の存在感を感じたりして友達と様々な感情の交流をすることが大切である。

友達とかかわるためには遊びの充実が欠かせない。友達といたい、友達と遊ぶことが楽しいという気持ちが強ければいざこざや葛藤場面を乗り越えようと幼児なりに努力するからである。そのように我慢したり、妥協したり調整する経験や友達から認められることによって自信が育っていく。また、より遊びが楽しくなるためには幼児同士が意見を言い合い、考え合う過程で互いの考えやよさを受けとめ合う関係をはぐくんでいく。幼児一人一人が、思いや考えを出し合い、それをお互いに受け止めながら、遊ぶ楽しさを実感でき、それぞれが自己発揮できるような、教師の援助が大切になる。

## 3 幼児にとって楽しいと感じるとは

幼児は教師を信頼し、見守られているという安心感から、興味や関心のある活動を十分に行い、充実感や満足感を味わうことが大切である。それを基盤に友達と遊びたい気持ちが高まり、一緒にいることを喜び、次第に一緒に遊びを進めることを楽しむ。相手の思いや考えに気づき、共感したり、時には葛藤を乗り越えたりしながら友達とともに遊びを進めることで様々な感情体験をする。一人よりも何人かの友達と一緒に活動することで生活がより豊かに楽しく展開できることを体験し、友達がいることの楽しさと大切さを感じていく。

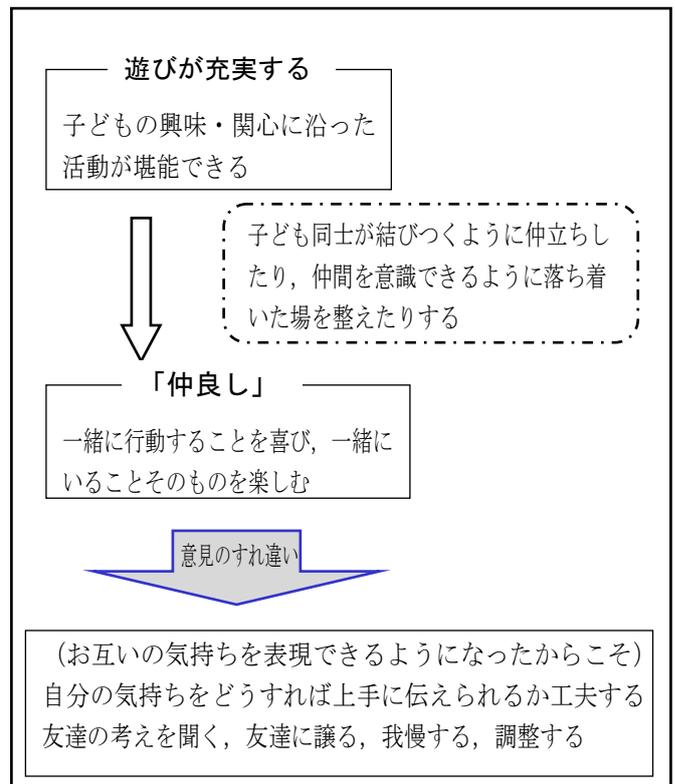


図1 友達とかかわるようになるイメージ図

#### 4 環境の工夫の視点

##### (1) 友達のよさに気づく視点

- ・友達の作った物がみられるように展示を工夫する。
- ・帰りの会などで遊びや友達のよさを話し合ったり、困ったことをどうしたらいいかを話し合ったり、ともに考える機会をつくる。遊びや友達とのかかわりの中で共通認識が持てるように話し合いの場を持つ。
- ・友達がやっていることに意識が向き、友達の存在が感じられるような場の設定を工夫する。
- ・幼児が繰り返して試行錯誤し、チャレンジできるような時間・空間・場を工夫する。

##### (2) 友達とかかわる視点

- ・幼児が遊びたくなるような素材、遊具、用具を準備し、様々な環境に出会えるようにする。
- ・試行錯誤したり、イメージを出し合ったりなど幼児同士がかかわり合うことができる環境構成をする。
- ・友達のしていることに関心をもてるように、遊びの場の設定を工夫する。
- ・幼児の情緒の安定や育ち、発達段階に応じて遊具や用具の数量を配慮し、貸し借りや友達と一緒に考えながら遊びを進められるようにする。

#### 5 教師の援助の視点

- ・一人一人の気持ちに寄り添い心の安定がはかれるようにスキンシップを大切にしながら、信頼関係を築いていく。
- ・幼児の興味を探り、いろいろな環境にかかわれるように誘ったり、教師がモデルとなって遊びの方法を知らせたり、一緒に遊んだりする。
- ・一人一人が遊び込む姿や友達とかかわって遊ぶ姿を見守ったり、一緒にかかわり楽しさを共感する。
- ・幼児が友達の思いに気づけるように教師は意識して言葉をかける。
- ・教師は、幼児の気持ちを代弁したり、友達への思いの伝え方を知らせたりする。
- ・幼児がじっくりと遊びに取り組めるよう場や時間を工夫する。
- ・幼児同士が認め合い、遊びに高まりや学び合いができるように話し合う。
- ・幼児同士でトラブルを解決できるように見守ったり仲介したりする。
- ・幼児がやり遂げようとする気持ちに寄り添いながら、達成感や満足感を味わえるようにかかわる。
- ・幼児同士が互いのよさに気づき、認め合えるように幼児の思いをつないでいく。

#### 6 協同して遊ぶとは

##### (1) 「協同する」とは

友定啓子 氏 (2008) は『協同する』とは、ただ単に子どもたちが一緒に何かをすることという意味でなく、一人ひとりの幼児が自己を発揮し、相互に調整しながら、新しいものを作り出していく過程という意味で用いられ (一部)」と述べている。単に友達や集団の動きに同調することではなく、幼児が自分を発揮し、友達とかかわり合い相互によさを認め合いながら何かをつくりだしていく過程と捉える。

##### (2) 「協同する経験を重ねる」

友定啓子 氏は『協同する経験を重ねる』とは、友達と一緒に遊んだり活動したりするなかで、様々な経験をし、結果的に『友達と一緒に何かをすることはおもしろい』『友達と一緒になら一人ではできないこともできる』『考えが違うこともあるけれど一緒にいると楽しい』など、子どもが自分や友達、集団に対しておおむね肯定的になることで

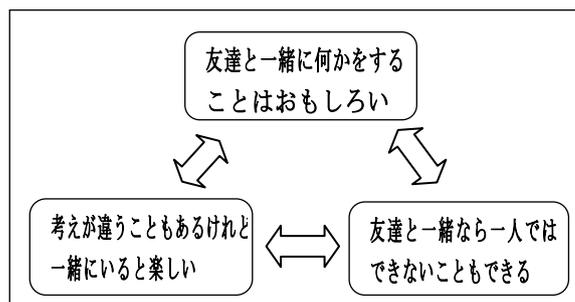


図2 協同する経験を重ねる す。」

と述べている。幼児が互いにかかわりを深め、共に活動する中で、みんなでやってみたい目的が生まれ、試行錯誤しながら活動を展開する。共通の目的が実現するしないにかかわらず、幼児が活動そのものを楽しんでいれば、またみんなで一緒に活動しようという気持ちになる。また、目的が実現した場合、その喜びを十分に味わうことが次の活動につながる。

## VI 研究の実際

幼児が友達とかかわって遊ぶようになるために、「環境」と「教師の援助」を工夫し、3回の保育実践を行い、改善を図る。

### 1 保育実践（1回・4月）「新聞をどんどん長くつなげよう」

#### (1) 保育のねらい

- ・クラスの仲間に気づく。

#### (2) 検証のねらい

- ・クラスの友達に気づかせながら遊びを楽しめるように援助をする。

#### (3) 環境の工夫

- ・チラシや新聞紙を自分で取って使いやすいように準備する。
- ・ゲームの時は新聞を一人1枚ずつ配りやすいように用意する。
- ・つなげた新聞紙を比べられるように遊戯室で行う。

#### (4) 教師の援助

- ・いいアイデアなどを大きな声で認めながら周りの子に知らせるようにする。
- ・友達に教えてもらうように促し、橋渡しをする。
- ・友達と一緒にやっていることを知らせたり、認めたり誉めたりする。

#### (5) 実践計画と結果

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
4月25日(月)	・遊びを楽しみ、友達の存在に気づくようにする。	・チラシや新聞紙で剣や帽子を作る ・上手な子ができない子に作ったり教えたりする。 ・チラシや新聞紙で戦いごっこをしながらマントやベルトなどをつくりだす。 ・興味を持った幼児同士のかかわりが見られる。	○新聞紙を使って帽子を作って見せ興味を持たせながら、自分で取って使えるように準備する。 ○剣づくりが出たときは安全面に配慮し、広い場を整える。 ★剣作りでははじめ手伝うが上手な子を見つけ教えてあげるように促したり、興味を持っているが自分から入れない子を誘ったりする。 ★工夫しているところなどを誉めたり認めたりする。	・チラシで剣を作って楽しんでた。友達と戦いごっこが始まった。 ・新聞の帽子を作っていた。教える姿もみられた。 ・強く剣で叩いてしまい泣く子がいた。	・剣づくりで「上手だね。教えて」と自分から友達に話しかけていた。 ・教師に教えてもらった子が友達に対して「帽子の作り方を教えようか」と自信をもって声をかけ教えていた。 ・泣いてしまったことで戦いごっこが優しく友達と剣を交わらせるようになってきた。

「新聞をどんどん長くつなげよう」					
4 月 26 日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの仲間 間に気づくよ うにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめは自分 で新聞を切っ て貼ることを 楽しむ。</li> <li>・長さ比べをす ることで友達 と一緒にやら ないと長くな らないことに 気づく幼児が 出てくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★遊び方を説明し てからゲームを始 める。様子を見な がらストップし、 長さ比べをする。 どうしたら長くで きるかと投げかけ もう一度はじめ る。</li> <li>★競争だけになら ないようにし、力 を合わせることに 楽しく感じるよう な声かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目は1本長く つなげたグルー プと、それぞれが つなげていて数本 あるグループがあ った。</li> <li>・「どのグループが 長いかな」と比 べ、どうしたら長 くなるのか考える ように促し、2回 目を始めるとそれ ぞれだった新聞を 1本につなげた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「グループで力を 合わせて」とい うことを始めに 説明したが切る ことや長くつな げることを楽し んでいる幼児が いた。</li> <li>・長さを比べるこ とでゲームのや り方を理解し、 友達と一緒につ なげることを楽 しんでいた。</li> </ul>
<p><b>【考察】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児はレゴブロック、ままごとなどの遊びにはたくさんいるが、となりにいる幼児とのかかわりがあまり見られなかった。チラシや新聞という身近で作り出しやすい素材を準備することで剣作りやマントをつくって戦いごっこなど友達とかかわって遊ぶ姿がみられた。</li> <li>・強く叩くと痛いということに気づき、力加減をするようになっていった。</li> <li>・「どんどん長くつなげよう」では、ゲームのやり方を理解することで、一緒につなげると長くなることがわかり、数人の子は「テープ切るよ」切った新聞紙を「はい」と渡し、分担して遊びを進めようとする姿が見られた。</li> </ul> <p><b>【改善】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手をつなぐなど友達と触れあえる踊りやゲームなどを行いながら、となりにいる幼児に気づきみんなといると楽しいという雰囲気づくりをする。</li> </ul>					

## 2 保育実践（2回・6月）「砂場・泥・色水あそびをしよう」

### (1) 保育のねらい

- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

### (2) 検証のねらい

- ・思いや考えを伝え合うように援助を行う。

### (3) 環境の工夫

- ・試したり工夫したりできるように様々な材料を準備する。
- ・遊具や用具が出し入れしやすいように準備し、足洗のタライや足ふきを用意する。

### (4) 教師の援助

- ・教師も仲間に加わり、友達といっしょに遊ぶ楽しさを共感する。
- ・友達がやっていることに気づくような声かけをする。
- ・幼児の気づきや驚きを受け止めたり、周りにも知らせたりする。

(5) 実践計画と結果

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
6月20日(月)・21日(火)	・友達と一緒にかかわりをもって遊ぶことを楽しむ。	・好奇心旺盛な幼児はすぐに色水を作りはじめる。 ・泥と砂を使ってお団子作りが始まる。 ・友達や教師に作り方や遊び方を教えてもらう。 ・興味を持って傍観している幼児もいる。 ・長縄では2クラスの幼児が一緒に楽しんでいる。	○砂、土で使う遊具が区別できるように印をつける。 ○色水を作ったり色を見たり比べたりできるようにビニール袋を用意する。 ★色水や泥遊びは一緒に遊びながら楽しさや驚きなど共感する。 ★自分から遊びに入れない子には誘いながらかかわりが持てるように援助する。	・砂や水、泥の感触を楽しんでいた。 ・少人数のグループで自分の思いや考えを言っていた。 ・泥団子を作りたいが水加減が難しいようである。 ・自分から遊びに参加している幼児と、興味をもって見ている幼児がいる。 ・遊びがまだ深まっていない幼児もいる。 ・色水ではどの花を使ってよいか、また作り方など教え合う姿が見られた。 ・砂場では友達と水を運び、溜めることを楽しんでいるグループがいくつかある。	・教師が声をかけてくれるのを待っていた幼児が色水をつくることで友達と一緒に見せ合ったり比べたり楽しんでいた。 ・イメージを引き出しながら友達と遊びをつなげていきたい。 ・教師が側にいないと遊びが継続しない幼児もいるので、遊びの楽しさを伝えながら友達とつながりをもたせるように援助する。
6月22日(水)	・自分の考えや気持ちを出しながらかかわりをもって遊ぶことを楽しむ。	・色水やシャボン玉で試したり友達と比べたりすることを楽しむ。 ・水を流したり溜めたりしながら「お風呂」「川」などイメージをする。となりの遊びとかがわりが出てくる。	★幼児が自分なりのイメージや遊び方で遊んでいる様子に共感したり、思いついたことを実現できるように、手助けをしたりする。 ★必要なものを一緒に考えたりして遊びの楽しさが広がるようにする。	・色水の作り方を友達に教えていた。その後ペットボトルに入れて色を比べ合っていて楽しんでいた。 ・容器に入れて色を楽しんでいる幼児と混ぜて遊びたい幼児の思いの違いからトラブルがみられた。	・友達の遊びに気づき、教え合う姿が見られた。 ・思いの違いからくるトラブルを友達の存在に気付かせるチャンスととらえたい。
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「色水は枯れた花を使うんだよ」「揉むと色が出るよ」と友達に作り方を教え合う姿が見られ、かかわりがもてるようになった。</li> <li>・砂場遊びでは「水くんできて」「こっち掘るよ」など役割分担など協同的なかかわりが見られた。</li> <li>・思いの違いからトラブルがでてきた。</li> </ul> <p>【改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児と一緒に砂場の草抜きなどをしながら、砂遊びに興味を持たせ、ダイナミックに遊びを楽しませたい。</li> <li>・意図的に遊具や用具の量を調整して貸し借りの場をつくる。</li> </ul>					

### 3 検証保育（3回・7月）「いっしょに遊ぼう」

#### (1) 設定の理由

- ① 教材観（省略）      ② 幼児観（省略）
- ③ 指導観

幼児は他の幼児といっしょに楽しく遊んだり活動したりすることを通して、互いのよさや特性に気づき、友達関係を形成しながら、次第に人間関係が広がり深まっていく。

友達といろいろな遊びを楽しむようになってきたこの頃、友達とのつながりを深めていきたい。そのため、友達といっしょに遊びが楽しめるよう、物的・空間的な環境の構成と時間の配慮をする。教師も仲間に入りながら友達をつなげるよう援助していくようにする。

#### (2) 保育のねらい

- ・自分の考えや思いを伝えながら友達と遊ぶ楽しさを味わう。

#### (3) 検証のねらい

- ・思いや考えを伝え合いながら遊びが楽しくなるように援助する。

#### (4) 環境の工夫

- ・遊びを楽しめるように時間と場を整える。
- ・周りの友達が何をしているのか見えるように遊びの場を設定する。

#### (5) 教師の援助

- ・遊び込む姿や友達とかかわって遊ぶ姿を見守ったり共感したりする。
- ・友達同士が互いのよさに気づき、認め合えるように幼児の思いをつなげていく。

#### (6) 実践計画と結果

月日	検証のねらい	予想される幼児の活動	○環境構成 ★援助の工夫	実際の幼児の姿	検証結果
7月8日(金) ・ 11日(月)	・友達と考えを出し合いながら遊びを楽しむ。	・やりたいイメージが同じになってくる。 ・いろいろな考えが出てくるのでトラブルも見られてくる。	★自分の思いが相手に伝わる喜びが味わえるように仲介したり見守ったりする。 ★一人一人が遊び込む姿や友達とかかわって遊ぶ姿を見守ったり、一緒にかかわったりしながら楽しさを共感する。	・砂場では3グループそれぞれが樋に水を流して遊んでいたがしだいに川になりつながっていた。 ・色水遊びではお客さんがいなくて困っていたことをクラスで話すと看板づくりや大安売りしたりといいとアイデアがでた。	・遊びの中で役割が出てきたことで遊びが楽しくなった。 ・クラスでお客さんがいなくて困ったことを話すことで一緒に考えようとするきっかけになった。 ・自分の遊びだけでなく周りの幼児に関心を持つ幼児が出てきた。
7月12日(火) 本時	・友達と考えを出し合いながら遊びを進める。	・遊びが楽しくなるにはどうしたらいいか考える。 ・役割がでて友達と遊びを楽しむ。	○色水で使うペットボトルの数を減らす。 ★互いの思いが伝わらずに遊びが進んでいないときは、必要に応じて仲立ちをする。	・風を感じながらシャボン玉遊びを楽しんでいた。 ・楽しく遊んでいる様子を見て、他のクラスの幼児も遊びに加わった。	・新しく遊びに参加した幼児もいたので、色水では容器に水を移し替えることを楽しむ幼児とジュース屋さんをやりたい幼児がいて同じ場でもそれぞれの遊びが見られた。お互い関心を持っている。 ・仲良しの友達と考えを出し合いながら遊びを楽しんでいた。

(7) 保育の展開（本時）

<p>幼児の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先週、親子竹馬作りやプール等で遊びの続きがあまりできなかった。</li> <li>・友達とのかかわりやつながりが増えてきた。</li> <li>・友達と考えを出し合って遊びを進めようとしている。</li> </ul>	
<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に考えを出し合いながら遊びを楽しむ。</li> </ul>	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたいことを実現するために、試したり、工夫したりする。</li> <li>・自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら遊ぶ。</li> </ul>
<p>時間</p>	<p>予想される幼児の活動</p>	<p>○環境構成      ★教師の援助</p>
<p>9:30</p>	<p>○好きな遊びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂場あそび    ・シャボン玉</li> <li>・固定遊具      ・色水</li> <li>・虫取り        ・竹馬</li> <li>・木登り</li> </ul> <div data-bbox="252 833 785 1249" data-label="Diagram"> </div> <div data-bbox="357 1368 616 1570" data-label="Image"> </div> <p>○片付けをする</p> <p>○話し合いをする</p> <p>10:10</p>	<p>○朝の活動をした後、遊びに必要な遊具や用具を幼児と一緒に準備する。</p> <p>○試したり、工夫したりできるように様々な素材（ペットボトル・カップ・ビニール袋など）を準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★風が強くないときはテーブルとパラソルを準備し、暑さに配慮する。</li> <li>★教師も仲間に加わり、一人一人の思いや、友達と一緒に遊ぶ楽しさを共感する。</li> <li>★友達の思いや考えに耳を傾けている姿をとらえ「○○さんもそう思うんだね」「いい考えだね」など認めたり、共感したりしながら遊びの方向を見いだす姿を援助する。</li> <li>★意見のぶつかりやトラブルが起きたときは、思いを引き出しながらどうしたらいいのか相談したり、自分の思いを話したり相手の思いを聞くように促す。</li> <li>★個々の工夫を周りの子にも伝え、友達の動きにも関心が持てるようにしていく。</li> <li>★友達とのかかわりが少ない子には遊びに誘ったり話をしたりしながら、かかわりを持てるようにする。</li> <li>★楽しかったことを話しながら教師も一緒に片付けをする。</li> <li>★きれいになって気持ちいいことを共感する。</li> <li>★友達といっしょに考えを出し合っていたことを伝え、誉める。</li> <li>★楽しかったことを話し合いながら、明日に期待を持てるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="1182 833 1445 1025" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1158 1350 1437 1552" data-label="Image"> </div>
<p>反省評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを出し合いながら友達と楽しく遊んでいたか。</li> </ul>	

## (8) 検証保育（本時）の評価

### ① 環境の工夫の面から

- ア 遊びに必要な遊具や用具を幼児と一緒に準備をすることでどんなふう遊びたいか期待を持ちながら遊びに取り組もうとする姿が見られた。
- イ 今まではクラスを中心に遊んでいたが隣のクラスの幼児とも一緒に遊ぶ姿が見られた。
- ウ 遊びの動線をもっと考えて環境を整える必要があった。
- エ 遊具や用具の数は、幼児の発達や何を経験させたいかで変えていく必要がある。

### ② 教師の援助の面から

- ア 帰りの集まりで遊びの様子をクラスで話し合うことで他の幼児が興味を持ったり遊びに加わったりしていた。
- イ 今日の遊びについて話し合いをすることで、友達や遊びに関心を持たせることができ、話し合う雰囲気を感じていた。
- ウ 友達とかかわって遊ぶにはまだ遊びの溜め込みが少なかった。

## (9) 本時のまとめ

- ① 教師が幼児の育ちや遊びの読み取りをしながら環境構成をすることの大切さを再確認した。
- ② 幼児同士がかかわって遊ぶためには遊びの溜め込みが必要で、幼児が遊びを満足していれば次第に誰かとかかわることができる。本時の幼児の様子から、育ちの読み取りが十分でなかった。幼児理解を深める必要があると痛感した。
- ③ 友達同士をつなげるための教師の援助、教師同士の立ち位置など園全体でも共通理解を深めていきたい。

## VII 研究のまとめ

本研究においては、協同的な遊びを通して、「友達のよさに気づき、かかわって遊ぶ楽しさを味わう」ための環境の構成や教師の援助のあり方を探りながら保育実践を繰り返して行った。3回の保育実践の結果で分かったことをまとめる。

### 1 環境・教師の援助と幼児の変容

	実践	教師のかかわり・手立て	幼児の変容
環境の工夫	保育実践1 「新聞をどんどん長くつなげよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な素材の新聞紙は手で切ったり、丸めたり、つなげたりし易く遊びやすい教材だった。</li> <li>・園に慣れることに精一杯で友達とかかわりを持ってない子もグループで新聞紙をつなげることで一緒にやる楽しさを味わっていた。時期によってクラスの友達を感じる保育、友達をつなげる保育の大切さを再確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活に不安を感じていたA子は剣作りを友達に教えたり作ってあげたりすることで友達とのかかわりができて笑顔になった。</li> <li>・グループの友達と一緒に新聞をつなげることで友達に親しみを持ちはじめた。</li> <li>・一緒にやる楽しさを味わっていた。</li> </ul>
	保育実践2 「砂場・泥・色水あそびをしよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの場を教師だけでなく幼児も一緒に整えることで今まで関心がなかった幼児も遊びに参加するようになり、友達とかかわって遊ぶことにつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体で感触を味わうことで開放感を味わい、声を出したり、大きな声で笑ったりする姿がみられた。</li> <li>・砂遊びや泥遊びでは同じ場所においてもそれぞれで遊んでいたが周りの幼</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>遊具や用具を出し入れしやすくすることで、友達を誘いながら準備や片付けをするようになり、幼児がかかわれる環境になった。</li> </ul>	<p>児の遊びが楽しそうに感じると少しずつかかわりがでてきた。周りの友達への関心がでてきた。</p>
	<p>保育実践3 「いっしょに遊ぼう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの場所を工夫することで2クラスの幼児のかかわりが増えた。環境構成を工夫するとき動線も配慮することが必要だと痛感した。</li> <li>ペットボトルなど数を減らすことで貸し借りなど友達とかかわりが見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲良しになった友達と一緒にいることを楽しんでいたが、遊びが盛り上がってくると他の幼児とのかかわりが見られた。</li> <li>遊びの中で考えを出して遊びを楽しもうとする姿が見られた。</li> </ul>
教師の援助	<p>保育実践1 「新聞をどんだん長くつなげよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の心の安定をはかるため、みんなでゲームをすることで友達の存在を感じることができた。実態把握をし、意図的にかかわる遊びが必要だとわかった。</li> <li>グループで競争をすることで遊びの意欲がでた。どうすれば長くできるかを考えたり力を合わせたりするきっかけになり、友達とかかわれるような言葉かけの大切さを実感した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あまりかかわっていなかった友達に「教えて」と声をかける姿が見られた。</li> <li>「新聞を長くつなげよう」では遊びが遊びにのりやすい競争を取り入れることでグループの友達と「新聞切って」「テープちょうだい」など会話が出た。長さを比べるときグループでつなげたものを見ながら幼児同士、笑顔で顔を見合わせる姿が見られた。</li> </ul>
	<p>保育実践2 「砂場・泥・色水あそびをしよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師も一緒に遊ぶことで、楽しさや幼児の発見、不思議に思ったことに共感し、遊びが楽しくなるようなアドバイスをしたり友達とかかわる橋渡しをしたりすることが大切であると実感した。</li> <li>友達のよさを伝えながら、かかわりが持てるようにすることも大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児は教師に話しをしながら遊びのアイデアが出てきた。</li> <li>言葉で自分の思っていることを話そうとしていた。</li> <li>今まで教師のそばにいたことが多かった幼児が自分から友達に「教えて」と話かけ、教える子も嬉しそうに教えることを楽しんでいた。</li> </ul>
	<p>保育実践3 「いっしょに遊ぼう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帰りの会でお客さんがいなくて困っていたことを話し合いすることで一緒に考えようという雰囲気づくりになった。友達の遊びに関心を持つようになった。クラスでも話し合う雰囲気をつくっていくことが大切である。</li> <li>色水をペットボトルに移すことに戸惑っていると側にいた幼児が手伝ったり、試行錯誤したりする姿が見られた。幼児の育ちや遊びの状況に応じて、見守った方がいいのか、手を差し伸べた方がいいのかを見極めることの大切さを痛感した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大安売りをしたらいい」「いらっしやいませと大きな声で言う」「看板を作ったら」など一緒に考えようとする。「僕、遊んだ後に買い物するよ」など友達の遊びに関心を持つ子が出てきた。</li> <li>砂場では少人数のグループが3つあったが、水をためながらとなりのグループとつながり、川とお風呂が一緒になり「ミラクル嘉手志川」になった。そのことを集まりで話すことで他の子も遊びに加わっていた。</li> </ul>

## Ⅷ 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 教師があらゆる場面で幼児のよさを見つけそのことを伝え、また、幼児同士の思いをつなげるような声かけを工夫することで幼児は友達のよさに気づき、一緒に遊ぶ楽しさを味わう姿が見られた。(Ⅵ-1)
- (2) 幼児の育ちや発達段階によって遊びの素材や用具の数量を配慮し、友達とかかわるような環境を準備することで協同的なかかわりが見られるようになった。(Ⅵ-1)

### 2 今後の課題

- (1) 幼児理解に努め、仲間としての育ち合いを見通し、その時期に大切な育ちができるような意図的な環境構成と援助の工夫。(Ⅵ-1)
- (2) 幼児が自己発揮しながら、協同的な経験を重ね、共通の目的や思いが実現できるような援助の充実。(Ⅵ-1)



〔ミラクル嘉手志川〕



〔ジュース屋さん〕



〔遊びの相談をする〕

#### 《主な参考文献》

- |              |                                |         |       |
|--------------|--------------------------------|---------|-------|
| 文部科学省        | 『幼稚園教育要領解説』                    | フレーベル館  | 2008年 |
| 無藤 隆 監修      | 『よくわかる幼稚園教育要領』                 | ひかりのくに  | 2009年 |
| 無藤 隆・柴崎正行 編者 | 『新幼稚園教育要領・新保育所指針のすべて 別冊〔発達〕29』 | ミネルヴァ書房 | 2009年 |
| 田代和美・松村正幸 編著 | 『演習 保育内容 人間関係』                 | 建帛社     | 2009年 |